

科目名	日本事情 I	
担当者	田中 利砂子 / TANAKA, Risako	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	日本語能力試験 N2 レベル以上の教材を用い、大学での勉学に必要な聞く力・書く力を養成するための練習を行う。また、自国や他国との比較の視点から日本の社会・生活に関する理解を深める。
	到達目標	1. まとまった内容を聞いて、正確に全体を把握できるようになる。 2. 語彙力・文法力を高め、必要なものは使用できるようになる。 3. 要約が書けるようになる。 4. 自国と他国との比較の視点から、日本の社会や生活について理解を深める。
授業計画	(1) 授業の説明 第1課 (2) 第1課 (3) 第2課 (4) 第2課 (5) 第3課 (6) 第3課 (7) 第4課 (8) 第4課 (9) 第5課 (10) 第5課 (11) 第6課 (12) 第6課 (13) 第7課 (14) 第7課 (15) 第8課	
自学自習	事前学習	・「使用教材」の該当課を事前に読み聴きしておくこと。 ・意味のわからない単語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・各課の後半部分で小レポート（要約）を課す。
使用教材・参考文献	使用教材	東京外国語大学留学生日本語教育センター編著『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 聴解 中上級』2014年 スリーエーネットワーク
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	下記の評価方法により、合計が60点以上の者を合格とする。ただし、5回以上欠席した者は不合格とする。
	方法	読書レポート（20点）、小レポート（30点）、期末試験（50点）
備考	1. 日本人学生は受講できない。2. 読書レポートの内容を成績評価の対象とする。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本事情Ⅱ	
担当者	田中 利砂子 / TANAKA, Risako	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	日本語能力試験 N2 レベル以上の教材を用い、大学での勉学に必要な聞く力・書く力を養成するための練習を行う。また、自国や他国との比較の視点から日本の社会・生活に関する理解を深める。
	到達目標	1. まとまった内容を聞いて、正確に全体を把握できるようになる。 2. 語彙力・文法力を高め、必要なものは使用できるようになる。 3. 要約が書けるようになる。 4. 自国と他国との比較の視点から、日本の社会や生活について理解を深める。
授業計画	(1) 授業の説明 第9課 (2) 第9課 (3) 第10課 (4) 第10課 (5) 第11課 (6) 第11課 (7) 第12課 (8) 第12課 (9) 第13課 (10) 第13課 (11) 第14課 (12) 第14課 (13) 第15課 (14) 第15課 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材」の該当課を事前に読み聴きしておくこと。 ・意味のわからない単語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・各課の後半部分で小レポート（要約）を課す。
使用教材・参考文献	使用教材	東京外国語大学留学生日本語教育センター編著『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 聴解 中上級』2014年 スリーエーネットワーク
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	下記の評価方法により、合計が60点以上の者を合格とする。ただし、5回以上欠席した者は不合格とする。
	方法	読書レポート（20点）、小レポート（30点）、期末試験（50点）
備考	1. 日本人学生は受講できない。2. 読書レポートの内容を成績評価の対象とする。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本事情Ⅲ	
担当者	入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	(1) 日本の文化・社会に関する情報(グラフ・表)を読み取り、説明する。 (2) 日本の文化・社会に関する情報(読み物)を読んで理解する。 (3) 自分自身の意見・体験や自国の事情について発表する。
	到達目標	(1) グラフの情報を理解し、説明できる。 (2) トピックに関連した読み物を読んで、内容が理解できる。 (3) 新出語彙および文型の意味と用法がわかる。 (4) トピックに関連したディスカッションに参加できる。 (5) 自分や自国について他国と比較しながら説明できる。
授業計画	(1) 食文化(ディスカッション) (2) 食文化(グラフの内容を理解し、説明する) (3) 食文化(関連語彙を学ぶ、本文の読解) (4) 食文化(表現を学ぶ) (5) 食文化(発表、質疑応答) (6) 生活習慣と宗教(ディスカッション) (7) 生活習慣と宗教(グラフの内容を理解し、説明する) (8) 生活習慣と宗教(関連語彙を学ぶ、本文の読解) (9) 生活習慣と宗教(表現を学ぶ) (10) 生活習慣と宗教(発表、質疑応答) (11) ジェンダー(ディスカッション) (12) ジェンダー(グラフの内容を理解し、説明する) (13) ジェンダー(関連語彙を学ぶ、本文の読解) (14) ジェンダー(表現を学ぶ) (15) ジェンダー(発表、質疑応答)	
自学自習	事前学習	新出語彙・表現を辞書等で調べておくこと。 作文課題を毎回提出すること。
	事後学習	添削された作文を見直し、訂正して再度提出すること。
使用教材・参考文献	使用教材	安藤節子他『改訂版トピックによる日本語総合演習上級』スリーエーネットワーク 2010年 ※教科書は共同購入予定
	参考文献	授業の中で必要に応じて紹介する。
成績評価の 基準と方法	基準	上記の到達目標を達成した者を合格とします。
	方法	授業での積極性(10点)、作文課題(40点)、期末試験(50点)で評価する。
備考	日本人学生は受講できない。教員が指示する『読書』課題の遂行を成績評価に加味する。	

授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本事情Ⅳ	
担当者	新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	1) 日本の経済・金融、政治・行政、社会・生活に関するニュースを聴き取ってニュースの概要を理解し、説明する。 2) 日本と比較しながら自分の国について発表する。
	到達目標	1) ニュースの概要を理解し、説明できるようになる。 2) 新出語彙と文型の意味・用法がわかり、必要なものは使用できるようになる。 3) ニュースに関連した自国のことを、日本と比較しながら、日本語のレジュメを使って口頭発表できるようになる。
授業計画	(1) 社会・生活 (2) 社会・生活 (3) 社会・生活 (4) 社会・生活 (5) 経済・金融 (6) 経済・金融 (7) 経済・金融 (8) 経済・金融 (9) 経済・金融 (10) 経済・金融 (11) 政治・行政 (12) 政治・行政 (13) 政治・行政 (14) 政治・行政 (15) 政治・行政	
自学自習	事前学習	・新出語彙・文型を辞書等で調べておくこと。
	事後学習	・各話題終了後に行う小テストのために、復習を行うこと。 ・添削された課題をもらったら、確実に見直し、訂正して再提出すること。
使用教材・参考文献	使用教材	プリントを配付する。
	参考文献	瀬川由美他『ニュースの日本語聴解 50』スリーエーネットワーク 2010年 ISBN978-4-88319-539-8
成績評価の基準と方法	基準	上記の3つの到達目標を達成した者を合格とする。
	方法	小テスト(20点)、口頭発表(20点)、読書課題(20点)、期末試験(40点)で評価する。
備考	・日本人学生は受講できない。 ・授業回数の1/3以上欠席した者は、不合格とする。また、2回の遅刻・早退で1回の欠席とみなす。	

授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本語 I	
担当者	新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	日本語能力試験 N2 レベル以上の教材を用い、大学での勉学に必要な聞く力・話す力を養成するための練習を行う。
	到達目標	1. 日本語での発表を正確に聞けるようになる。 2. 語彙力・文法力を高め、必要なものは使用できるようになる。 3. ひとりでまとまった内容が論理的に発表できるようになる。 4. 発表のテクニックを学び、話の内容を予測する能力を養う。”
授業計画	(1) 授業説明・日本語実力試験 (2) ウォーミングアップ (メモを取る練習・構成の確認) (3) ウォーミングアップ (構成の確認) (4) 第1課 (5) 第1課 (6) 第1課 (7) 第2課 (8) 第2課 (9) 第2課 (10) 第3課 (11) 第3課 (12) 第3課 (13) 第4課 (14) 第4課 (15) 第4課	
自学自習	事前学習	・教科書を前もって読んで必要な箇所はCDで聞いておくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・各課の後半部分で口頭発表を課す。また、各課終了後小テストを行う。
使用教材・参考文献	使用教材	犬飼康弘『アカデミック・スキルを身につける聴解・発表ワークブック』2007年 スリーエーネットワーク ISBN978-4-88319-426-1 C0081
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	まとまった内容が論理的に説明発表できるようになり、下記の<方法>の合計点が60点以上に達した者を合格とする。
	方法	クラスでの発表 (40点)、小テスト (10点)、期末試験 (50点)
備考	1. 日本人学生は受講できない。 2. 教科書を購入しなければ受講できない。 3. 授業回数の1/3以上欠席した者は、不合格とする。また、2回の遅刻・早退で1回の欠席とみなす。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本語Ⅱ	
担当者	田中 利砂子 / TANAKA, Risako	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	日本語能力試験 N2 レベル以上の教材を用い、大学での勉学に必要な聞く力・話す力を養成するための練習を行う。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語での発表を正確に聞けるようになる。</li> <li>2. 語彙力・文法力を高め、必要なものは使用できるようになる。</li> <li>3. ひとりでまとめた内容が論理的に発表できるようになる。</li> <li>4. 発表のテクニックを学び、話の内容を予測する能力を養う。</li> </ol>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業の説明 前期の学習内容の復習</li> <li>(2) 前期の学習内容の復習</li> <li>(3) 前期の学習内容の復習</li> <li>(4) 第5課</li> <li>(5) 第5課</li> <li>(6) 第5課</li> <li>(7) 第5課</li> <li>(8) 第6課</li> <li>(9) 第6課</li> <li>(10) 第6課</li> <li>(11) 第6課</li> <li>(12) 課題Ⅰ</li> <li>(13) 課題Ⅰ</li> <li>(14) 課題Ⅰ</li> <li>(15) 課題Ⅰ</li> </ol>	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「使用教材」の該当課を事前に読み聴きしておくこと。</li> <li>・意味のわからない単語は辞書等で事前に調べておくこと。</li> </ul>
	事後学習	・各課の後半部分で口頭発表を課す。
使用教材・参考文献	使用教材	犬飼康弘『アカデミック・スキルを身につける 聴解・発表ワークブック』2007年 スリーエーネットワーク
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	下記の評価方法により、合計が60点以上の者を合格とする。ただし、5回以上欠席した者は不合格とする。
	方法	クラスでの発表(40点)、小テスト(10点)、期末試験(50点)
備考	1. 日本人学生は受講できない。2. 教科書を購入しなければ受講できない。	

授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本語Ⅲ	
担当者	十島 真理 / TOSHIMA, Mari	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	大学生生活のなかで必要な日本語能力のうち、特に必要なレポートの書き方を練習する。
	到達目標	1. レポートが、できるだけ正確な日本語で論理的に書けるようになる。 2. レポートなどによく使用される文型や語彙が使用できるようになる。
授業計画	(1) 授業説明、実力試験（作文） (2) レポートに使われる文体 (3) レポートに使われる文体 (4) 文の基本 (5) 文の基本 (6) 文の基本 (7) 句読点の打ち方 (8) 各種記号の使い方、段落 (9) 引用のしかた (10) 引用のしかた (11) 仕組みの説明をする (12) 仕組みの説明をする (13) 歴史的経過の説明をする (14) 歴史的経過の説明をする (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学んだことを理解し、実践するよう努力する。
使用教材・参考文献	使用教材	二通信子ほか『改訂版 留学生のための論理的文章の書き方』 2003年スリーエーネットワーク
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	レポートが、できるだけ正確な日本語で論理的に書け、よく使用される文型や語彙が使用できることが達成されたものは合格とする。 上記評価方法により合計が60点以上に達した者を合格とする。 4回以上欠席した者は不合格とする。
	方法	テスト 60% 授業参加態度 40%、(小テスト 20点、期末試験 40点 宿題 30点、受講態度 10点)
備考	1. 日本人学生は受講できない。2. 教科書を購入しなければ受講できない。なお、教科書は共同購入する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本語Ⅳ	
担当者	入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	(1)社会的に賛否両論のあるテーマと関連した文章を読んで理解する。 (2)自分自身の経験および意見の発表をする。 (3)賛成または反対の立場を決めて根拠と共に自分の意見を発表する。
	到達目標	(1)テーマと関連した文章を読んで、内容が理解できる。 (2)新出語彙および表現の意味と使用方法がわかる。 (3)自分自身の経験および意見を適切に発表できる。 (4)賛成または反対の立場を決めて根拠と共に自分の意見を発表できる。
授業計画	(1) 早期英語教育 (語彙・表現) (2) 早期英語教育 (読解) (3) 早期英語教育 (経験・意見の発表) (4) 早期英語教育 (立場を決めて根拠と共に自分の意見を発表) (5) 死刑制度 (語彙・表現) (6) 死刑制度 (読解) (7) 死刑制度 (経験・意見の発表) (8) 死刑制度 (立場を決めて根拠と共に自分の意見を発表) (9) 体罰 (語彙・表現) (10)体罰 (読解) (11)体罰 (経験・意見の発表) (12)体罰 (立場を決めて根拠と共に自分の意見を発表) (13)インターネットとの向き合い方 (語彙・表現) (14)インターネットとの向き合い方 (読解) (15)インターネットとの向き合い方 (経験・意見の発表)	
自学自習	事前学習	新出語彙・文型を辞書等で調べておくこと。 作文課題を毎回提出すること。
	事後学習	添削された作文を見直し、訂正して再度提出すること。
使用教材・参考文献	使用教材	授業中に配布するプリントを使用する。
	参考文献	授業の中で必要に応じて紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	上記の到達目標を達成した者を合格とします。
	方法	授業での積極性(10点)、作文課題(40点)、期末試験(50点)で評価する。
備考	日本人学生は受講できない。授業で扱うテーマは受講生のニーズに合わせて変更することもある。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル